



決算説明会資料

平成19年3月期 第3四半期

開催日：2007年2月14日（水曜日）

証券コード：3753

株式会社フライトシステムコンサルティング



平成19年3月期 第3四半期 業績概況

連結業績ハイライト



連結経営成績

(単位:百万円)

決算期	平成18年3月期 第3四半期	平成19年3月期 第3四半期
売上高	864	1,728
メディアソリューション	-	1,413
システムインテグレーション	-	315
営業利益	△31	△323
経常利益	△36	△352
当期純利益	△10	△425

平成18年3月期第3四半期実績につきましては、(株)フライトシステムコンサルティングの単体の数値であります。
(子会社株式の取得が平成18年1月6日のため)

平成19年3月期第3四半期実績につきましては、子会社化いたしました3社の第3四半期(平成18年4月-12月)の実績を算入した数値です。

連結業績概況

- 例年、第3四半期(3ヶ月)は期間内に終了するプロジェクトは少ないため、売上進捗は大きくありません。
- 第3四半期は各プロジェクトを推進する時期ゆえ、表記の通り、連結売上高1,728百万円、連結営業損失323百万円、連結経常損失352百万円となっています。
- 当第3四半期末では受注残高が積み上がっており、当第4四半期(3ヶ月)に完了するプロジェクトが多いことから、通期では営業利益に転換するものと考えております。

業績概況 ～メディアソリューション事業～

数々のグループ協業効果が具現化

- 衛星放送向けに本社のコンサルタントグループと子会社が協業してソリューションを提供しました。
- 次世代の高品位な映像圧縮技術と言われるJPEG2000に関する商談でも本社並びに子会社が協業してソリューションをお客様に提供しました。
- 昨年暮れのドーハ・アジア大会でも子会社のエレテックス社が映像伝送技術を提供しました。
- 本年度から取り組みはじめたe-Japan事業に付随し、自社製品「Total Cluster」がメディアソリューション事業以外の領域にも導入が開始されました。
- デジタル放送に提供してきたネットワーク技術がe-Japan事業へも展開が開始され、新規事業として取り組みを開始したe-Japan事業が、メディアソリューション事業への収益に大きく貢献しました。

業績概況 ～システムインテグレーション事業～



- **e-Japan事業が確実に成長**
 - **今年度より新規事業としてスタートいたしましたe-Japan事業が確実に成果を出しつつあります。**
 - **当社が永年に亘って培ってきたオブジェクト指向開発の技術が金融系のお客様に拡がりを見せております。**

平成19年3月期 連結業績予定



(単位:百万円)

	平成18年3月期 (実績)	平成19年3月期 (計画)	
		金額	前期比
売上高	1,843	3,360	182.3%
メディアソリューション	1,280	2,695	210.5%
システムインテグレーション	562	665	118.3%
営業利益	19	76	400.0%
経常利益	21	40	190.5%
当期純利益	8	△64	-%

平成18年3月期実績につきましては、子会社化いたしました3社の実績(平成18年1月-3月)を算入した数値です。(子会社株式の取得が平成18年1月6日のため)

平成19年3月期計画につきましては、子会社化いたしました3社の1年間(平成18年4月-平成19年3月)の計画を算入した数値です。

業績予想につきましては、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づき作成しており、実際の業績は予想と異なる場合があります。

フライトグループとは

事業セグメント



当社グループは、事業セグメントとして以下の2つ分類しています。

メディアソリューション事業



株式会社フライトシステム
コンサルティング

映像・音楽等のデジタルコンテンツの管理や配信に関するコンサルティング、システム設計、開発、導入、保守



株式会社山下電子設計



エレテックス株式会社

放送機器等の製造、販売

株式会社ワイ・イー・シー・リサーチ

放送機器の修理、保守

システムインテグレーション事業



株式会社フライトシステム
コンサルティング

官公庁様および自治体様向けのコンサルティング、システム設計、開発、導入、保守

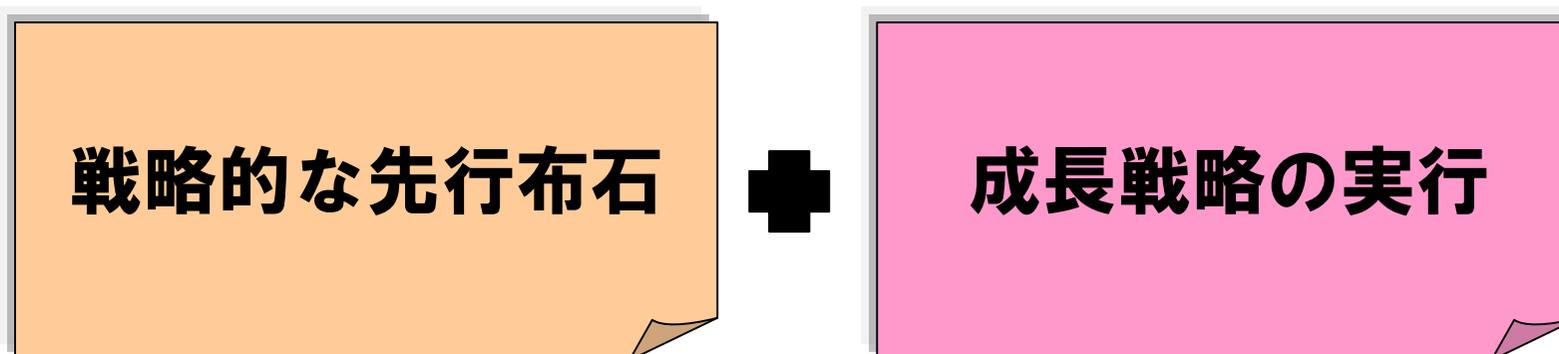
一般企業様向けオープン系システムによる高可用性システムの受託開発

会社・事業所 マップ

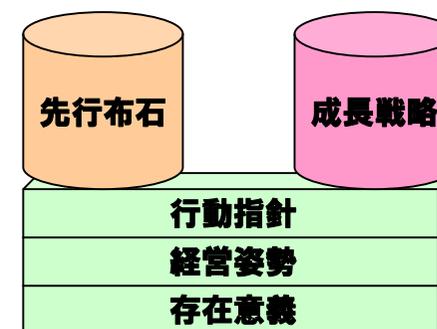


平成19年3月期 第3四半期レビュー

中長期にわたり継続的成長を実現するために



今期は子会社3社を入れたグループ経営を実質的に開始する年ということになります。私たちは、これを「第二の創業のスタートの年」と位置づけ、グループとしての土台作りを強力に推進し、戦略的な先行布石を打ち、成長戦略を実行していきます。



戦略的な先行布石とは

＜顧客ニーズに応えるためのグループ体制の強化＞

多様化するお客様の要望や潜在需要に応えるために、事業企画室を中心にグループ体制の強化を実現し、グループ協業を加速を実現させます。

グループ協業：

- ・ エレテックス、山下電子設計における製造統合が順調に進んでいるほか、統合的な部材管理システムの稼動によるコスト削減効果が出始めています。
- ・ グループ会社による協働活動での案件受注が加速化しています。

＜競争力強化のための構造改革＞

グループとしての基礎体力を高め、競争に勝ち抜いていくために、組織や研究開発、マーケティングを見直します。中長期にわたり継続的成長を実現するための投資を積極的に行います。

共同マーケティングの推進：

11月のInterBEE 2006において、フライトシステムコンサルティング、エレテックス、山下電子設計の3社による共同出展を実現したほか、ソリューション展示を中心にした共同マーケティングを積極的に展開しました。

国際放送機器展(InterBEE)への出展

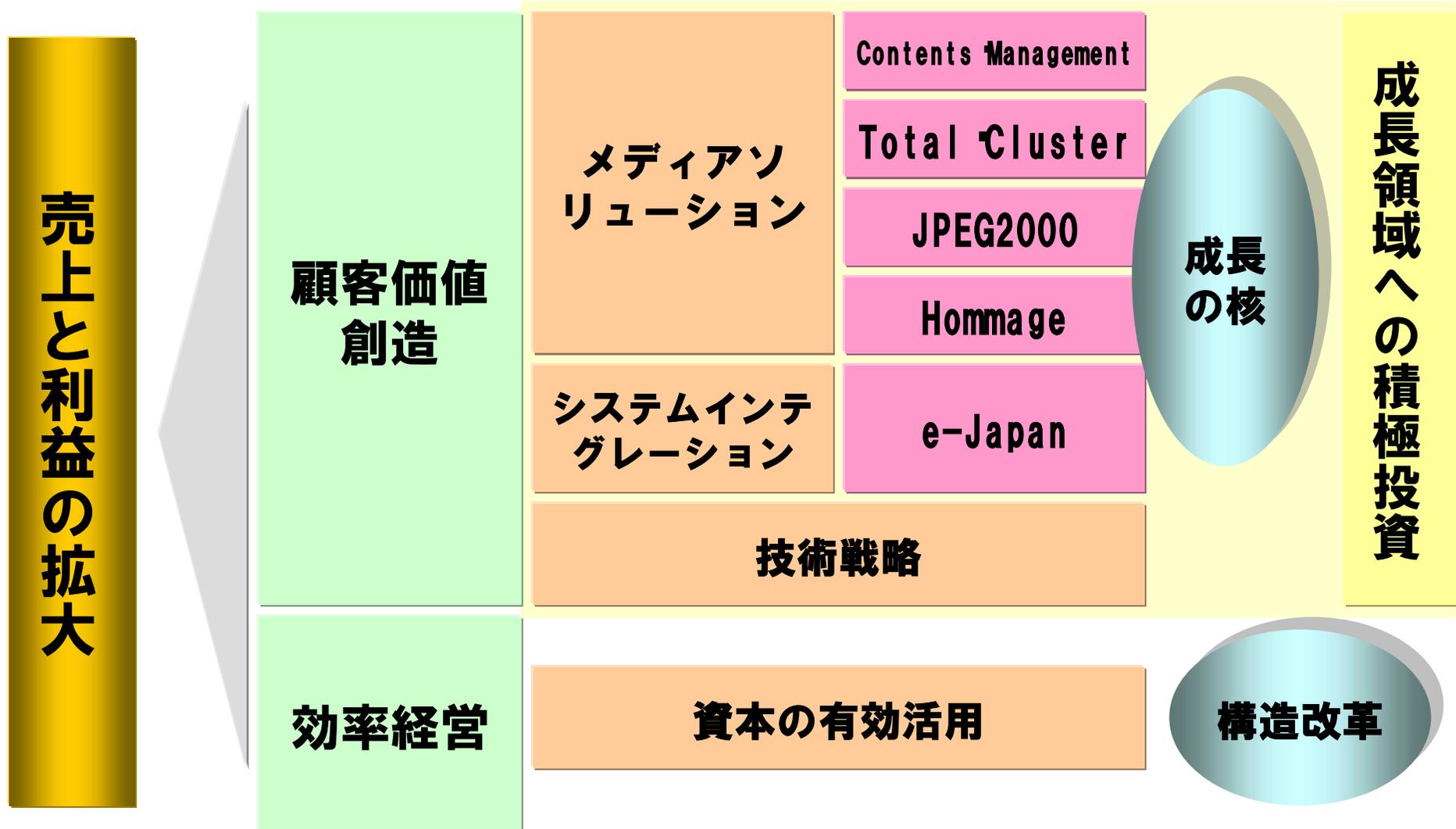


● 2006年11月15日～17日
幕張メッセにて開催

- グループの出展テーマとして「JPEG2000」を掲げ、JPEG2000の技術を応用した各種機器やソリューション等を展示し、当ブースへご来場いただきました放送局・ポストプロダクション・機器メーカー・マスコミ関係者の方々に高い関心を寄せていただきました。



成長戦略とは



成長戦略の実行



JPEG2000

JPEG
2000

JPEG2000エンコーダならびにデコーダの出荷を開始し、海外展開（主に北米地域）を含め積極的な営業ならびにマーケティング活動を進めます。さらに、Flight Contents ManagerやTSシームレススイッチャーなどとの組み合わせによる、お客様のニーズに応えるソリューションの開発を進めます。

市場への訴求：

- InterBEEへの出展を契機に、多数のお客様からお問い合わせをいただいたほか、実証実験やテストの引き合いも多くいただくことができました。
- 2007年1月～3月に幾つかの実証実験やテストが実施される予定です。

e-Japan

O S A C
Open Standardisation Support Consortium

Total Clusterやオブジェクト指向開発技術など、今までメディアビジネスで培ったノウハウを応用できる領域として自治体ビジネス分野に参入します。お客様の期待に応えるシステムの開発を進め、メディアビジネスと連携しながら成長していきます。

千代田区役所様：

受注いたしました「統合事務管理システム」のサービスインに向けて、順調に進んでおります。

宮城県様：

受注いたしました「工事管理システムの設計構築業務」の今年度の作業が予定通り進んでおります。

- **放送機器の保守を行っている株式会社ワイ・イー・シー・リサーチは、昨年12月に競合他社より一部の保守事業を譲り受け、10名ほどの要員を増やし、併せて事業領域の拡大を果たしました。**
- **今期は譲り受けた事業の引継ぎコストなどにより直接的な収益貢献はありませんが、ソニー(株)関連の放送機器の保守に関しては関東圏では大手の一角となりました。**

今後の展開について

テレビも携帯も映画もデジタル時代

■ 地上デジタル放送／衛星放送

高画質・高音質



番組案内



地域情報

市役所から
のお知らせ
.....
.....

データ放送



■ ワンセグ放送



■ 映画

映画もデジタル撮影、デジタル編集、デジタル上映の時代に！

映像を圧縮する技術は 山下電子設計のコア技術です



ハイビジョン映像

1.5 Gbps (ADSL等の数10倍の帯域が必要)



天気予報にはスキャンコンバータが必要

山下電子設計はスキャンコンバータの先駆者

天気予報の画面 はパソコンで制作



スキャンコンバータで ハイビジョンへ変換

中継放送には安定な伝送が必要 エレテックスのコア技術



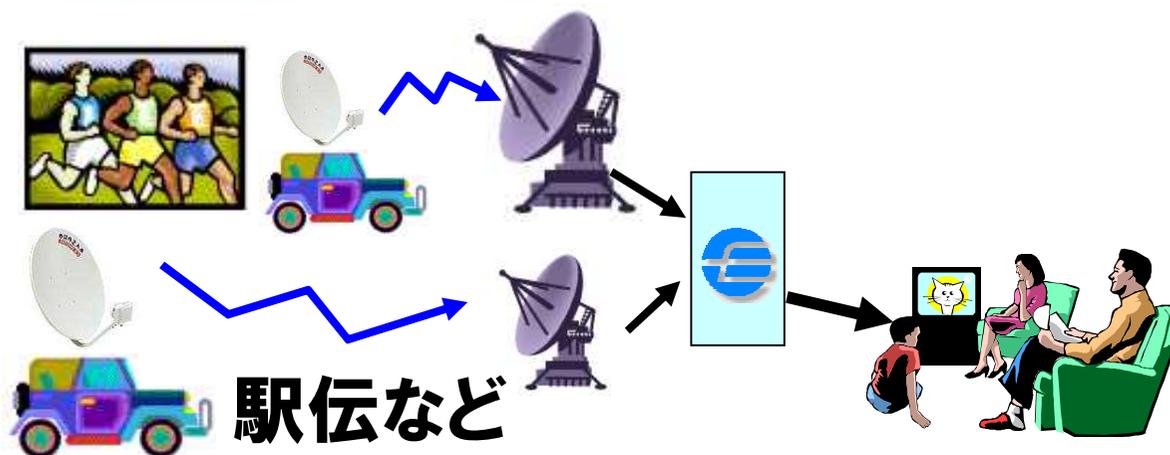
万が一の海底ケーブル瞬断に備え二重化が必須



全英オープン

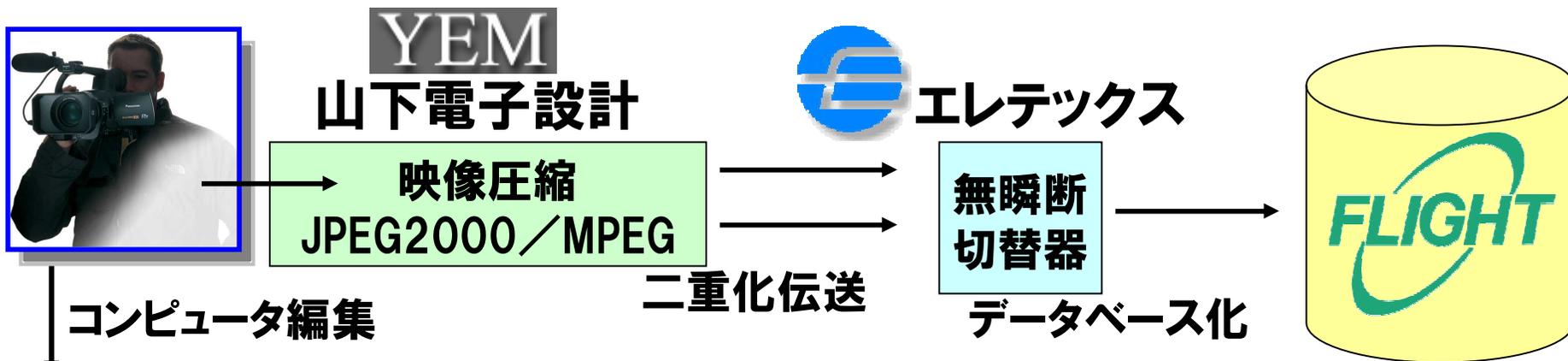


国際中継を二重化する
にはエレテックスの
技術が生きていま
す！



駅伝など

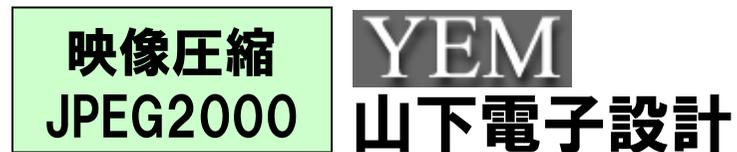
フライトグループなら 映像の入口から保存、配信までカバー！



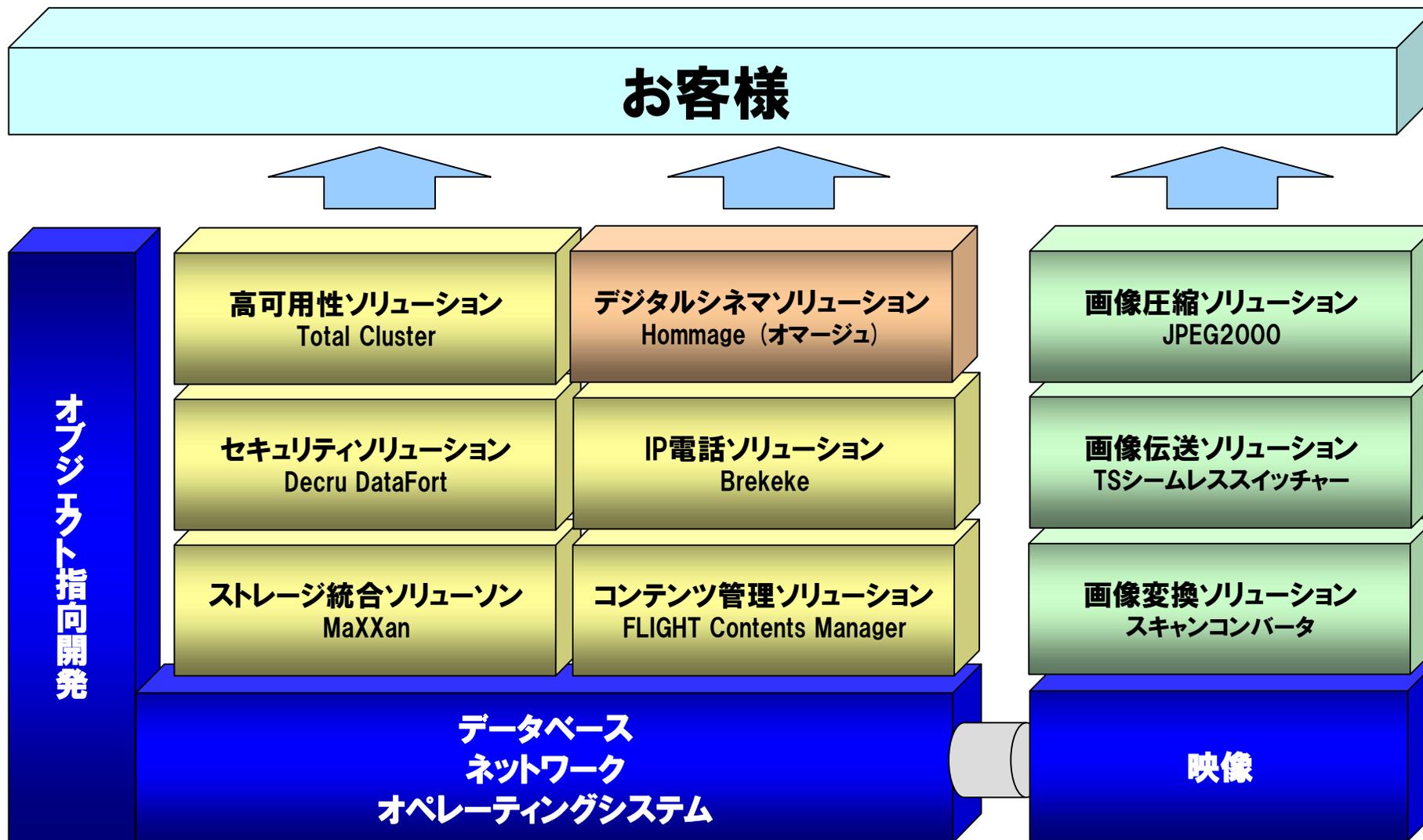
コンピュータ編集



映像の入口から保存、
配信まで、グループで
トータルにカバーします

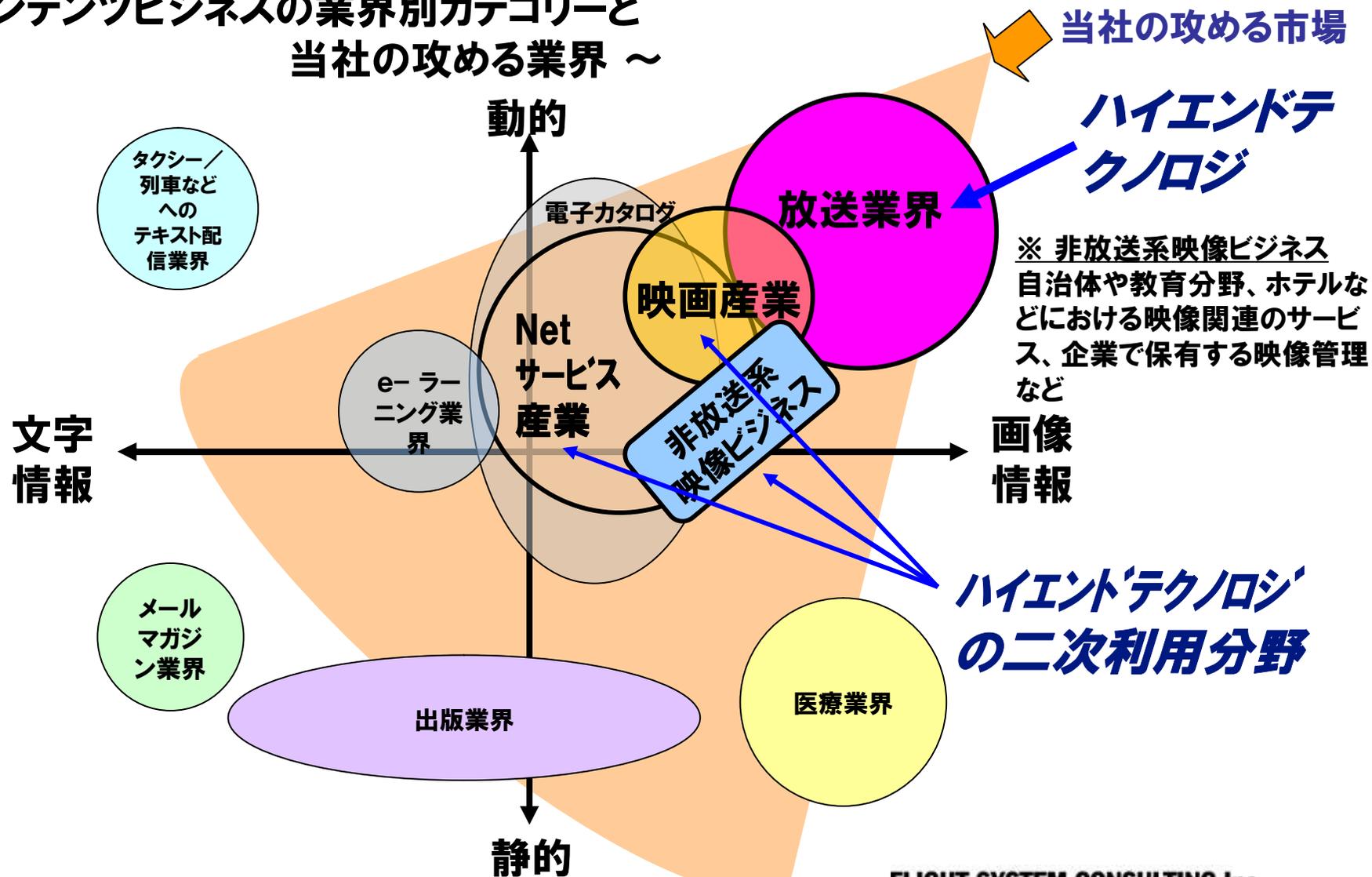


- コア技術と独創的なソリューションをお客様へ -



フライトグループの狙う市場

～ コンテンツビジネスの業界別カテゴリと
当社の攻める業界 ～



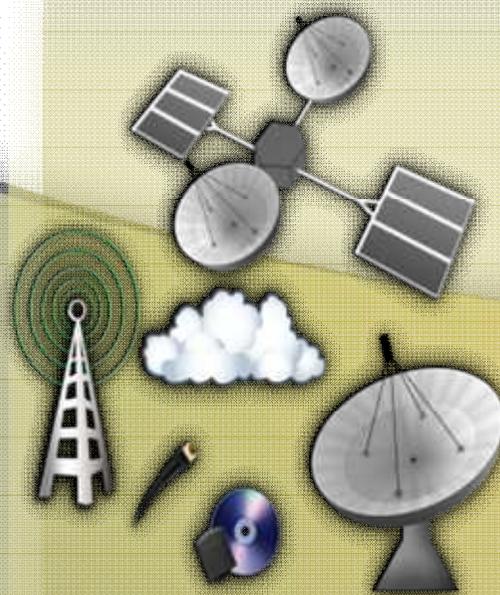
私たちの技術で新しいサービスを実現！

映像が制作から視聴されるまでの過程を技術で
支えます！



制作

JPEG2000でマスター保存することによって、高品質な映像を様々な配信形態に対して柔軟に対応していくことが可能です。



配信

通信回線の速度や使用用途に適したコーデック(H.264、WMなど)を使うことによって、様々なマシンへの配信が可能です。



視聴

TVやPCだけでなくiPodといった携帯機器、さらにデジタルシネマシアターなどで高品質な映像や音楽を視聴することが可能です。

JPEG2000を核に、フライトグループの総合力を発揮し、映像文化を支えるデジタル技術のテクノロジーリーダーとしてお客様に最適なソリューションを提供してまいります。

中期見通し (平成21年3月期)



■ 3年後にこのような企業グループになることを目指します。



デジタルメディア社会の成長を支え、
広く社会に貢献していく

フライトグループ

グループ企業規模

売上規模	47億円
従業員	230名

メディアソリューション事業
37.6 億円



システムインテグレーション事業
9.4 億円

お問い合わせ

- IRならびに本資料に関するお問い合わせ
 - IR責任者: 取締役 松本 隆男
 - IR担当者: 金(こん) 浩樹
 - E-Mail: info@flight.co.jp
 - 電話: 03-3440-6100
 - ホームページ: <http://www.flight.co.jp>

本資料について

本資料は、平成19年3月期第3四半期の業績について情報提供することを目的としたものです。本資料は、平成19年1月1日現在のデータに基づいて作成しております。本資料に記載した予測値や情報は、資料作成時点の当社の判断です。情報の正確性、完全性を保障するものではありません。また、今後予告なしに変更することがあります。